



## 【問題】「1と3はどちらが大きい？」

【問題1】「あなたの工場で稼動している作業ロボットの内、3台が今にも壊れそうである。ただし、別の作業ロボット1台を分解して必要な部品を取り出せば、この3台全てを修理できる事が分かっており、また作業ロボットの価値や役割に差は無い。さて、あなたは1台のロボットを分解するか？」

大抵の人は「分解する」と即答するだろう。では、状況が異なる以下の2つの問題ではどうだろうか。

【問題2-1】「作業現場の管理室でモニターを見ていたあなたは、線路上を暴走するトロッコを発見する。この線路の先には3名の作業員がいるが、周りに逃げ場は無く、このままでは十数秒後に皆轢かれてしまうだろう。あなたの手元にはトロッコが走る線路の切替ボタンがあるが、不幸な事に切替先の線路上にも作業員が1名おり、こちらにも逃げ場は無い。さて、あなたはボタンを押すか？」

【問題2-2】「医者あなたの元に、4名の患者が運ばれてきた。1名は軽症だが、3名は内臓に深刻な損傷を受けており、直ちに臓器移植しなければ助からないだろう。ただし、この3名は各々異なる臓器を損傷しているので、軽症者を昏睡させて臓器を取り出し移植すれば、間違いなく救う事ができる（血液型等は適し、移植可能である事は分かっている）。当然、臓器を取り出せば軽症者は命を落としてしまうが…。さて、あなたは臓器移植を決断するか？」

いずれの問題も根幹の論理構造は同じである。従って、【問題2】についても究極的には「1と3はどちらが大きい？」問題だと考え、両問ともに「3」を選んだ人がいるかもしれない。あるいは、これらは異なる問題だと感じ取り、別の回答を出した人もいるだろう。考え方は様々だが、どう考えるかは「背景にある状況」にどれだけ注目するかによって変わってくる。問題の論理構造自体に焦点を当てれば、結論を合理的に導けるだろう。一方、背景にある状況（今回の問題では、例えば社会通念や自身の倫理観等）を考慮する程、判断基準は複雑化するが、論理構造のみでは辿り着けない結論を導ける場合がある。問題の背景の微妙な違いが、適切な判断を下すにあたって重要な意味を持ち得るのである。

ビジネスの場では「～モデル」や「～フレームワーク」といった、事象の構造に注目する手法が活用されている。これらが分析や問題解決に有効であるのは間違いないが、時には構造のみならず「背景にある状況」にも注目すると、構造化されていない重要な観点の存在に気付くことができるかもしれない。

ところで、仮に【問題2】のような事態が実際に発生した場合、【問題2-1】の状況で「3」を選んでも本邦では罪に問われないが、【問題2-2】の状況で「3」を選ぶと重大な罪に問われることになるようだ。あなたの判断は適切でしたか？（須貝 悠也）